

コンパクトシティについて

古閑森 秀幸 議員

Q 都市・居住機能を集約したコンパクトシティのネットワーク化を目指す都市再構築戦略事業の指定を受け、富の原地区の整備が計画されることを期待している。そのような中、昨年3月議会的一般質問においても取り上げたが、宅地化がますます進行している富の原地区の、整備されていない狭い市有地農道の整備をどのように考えているか。

A 富の原地区の市有地農道の整備については、議員や地域の皆様と現地を確認したが、居住機能の充実を図る上で、市道認定されていない部分の、市道としての整備の可能性や側溝の対応について前向きに検討して取り組みたいと考えている。



コンパクトシティの街づくり構想は4地区に

村上 信行 議員

Q 国から都市再構築戦略事業の指定を受けたが、その内容はどうのようなものなのか。また、本市のまちづくりにどのようなメリットがあり、国の制度をどのように活用できるのか。また、コンパクトシティのまちづくりは、大村地区と新大村駅周辺と北部車両基地と考えているが、市役所を西大村地区に移転させ4カ所にすべきではないか。

A 都市再構築戦略事業の内容については、都市・居住機能を集約する地域を設定し、公共交通の充実や多極ネットワーク型のコンパクトシティを推進し、高齢者等に安心で快適な生活環境を提供するものである。また、メリットについては、国からの交付金が40パーセントから50パーセントになることで今後、強力なまちづくりを行えることだと思う。また、西大村地区に市役所を移転させ4拠点とすることについては、具体的な計画の中に、市庁舎の位置づけを行うべきだと考える。



行財政・一般

「市民の気持ち、市民の声」について

城 幸太郎 議員

Q 市民の声を聴く方法として「わたしの提言箱」というものが市役所や各出張所の入口に設置されているが、残念なことに大変見えにくい状態にある。地区別ミーティングは年1回の開催であるが、投書は1年中可能であり、人前での発言が苦手な人の提言や意見を聴くことができる。図書館やコミュニティセンター、病院、スーパー等への提言箱の設置場所の増加を提案する。

A 現在、市役所と各出張所の8カ所に提言箱を設置しているが、例えばコミュニティセンターや福祉センターなど設置場所をよく考えて、現在の2倍程度である15箱から16箱ぐらいにふやすとと考えている。

人口減少による税収減の予測と対応について

城 幸太郎 議員

Q 我が大村は人口増加が続く数少ない自治体ではあるが、現状の少子化や東京一極集中が継続すれば2040年には総人口が約5パーセント、生産年齢人口は約13パーセント減少し、逆に65歳以上の高齢者は30パーセント増加する。生産年齢人口が減少すれば当然、市税の減収が考えられるが、その試算は行っているのか。また、その対策は考えているのか。

A 人口減少、特に生産年齢人口の減少は税収にもある程度の影響があると思っているが、経済等の状況が不透明な中で、現時点で20年以上先の税収の試算を行うことは現実的ではないと思っている。また、人口減少対策については、子育てに対するさらなる支援の強化や地場産業の育成・支援、新幹線効果による交流人口や定住人口の増加などを考えている。